

小学校理科教育？ パワーアップ事業

鳥取県では、5つの小学校を拠点校とし、拠点校を中心に理科教育の充実を図っています。拠点校に指定されているのは、鳥取市立久松小学校、鳥取市立稲葉山小学校、倉吉市立社小学校、大山町立大山小学校、日野町立黒坂小学校です。そのうち、3校の取組をご紹介します。

鳥取市立久松小学校

子どもたちの「ふしぎ」「調べたい」という知的好奇心や疑問を大切に授業づくり、興味・関心をひきつける教材・教具による理科的環境づくりを力を入れています。授業では「おもしろい」「もう少し考えたい」といった発言が飛び交うようになりました。日々の姿から学びのスタイル「きゅうしょう学び」（きゅつとつかむ、うーんと考える、しょうめいする、うんとうなずく）の習得が感じられ、教員も理科の楽しさ、やりがいを感じていると語ります。

倉吉市立社小学校

子どもは不思議が大好きです。不思議に思ったことや知らないことに出会うと、目を輝かせて謎解きを始めます。子どもが意欲的に取り組むことができるような課題を設定し、それを解決するための実験を考えさせるなど、子どもの興味・関心を大切に理科学習に取り組んでいます。また、「846(やしろ)ひらめきシート」(ワークシート)を活用し、思考の過程を大切にしながら、子どもの科学的思考力・表現力を育成しています。子どもが目を輝かせるように、教員も目を輝かせて授業づくりに励んでいます。

日野町立黒坂小学校

地域の自然を生かし、体験を重視した理科の学習に取り組むことで、理科が好きな児童が増えています。また、「かわっこ学び大作戦(理科編)」（黒坂小学習の流れ）を作成し、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにしています。担当教員が根雨小学校でも授業をすることで、理科の学習を通じた児童や教職員の交流も深まっています。教職員研修で「日野川」の水生物の観察と調査」を行い地域の自然について学ぶなど、教職員の理科に対する関心も高まっています。

鳥取市立稲葉山小学校、大山町立大山小学校の取組については、小中学校課のHPに掲載していますので、ぜひご覧ください。

問合せ先 県教育委員会小中学校課 【電話】0857-26-7935 【FAX】0857-26-8170 <http://www.pref.tottori.lg.jp/shouchugakkouka/>

たくましく・夢を持って・自立できる子どもを育てる『ととりの家庭教育』

子どもと向き合う家庭教育

家庭は「心の根っこ」です！子どもと向きあい、共に過ごす時間を大切にしましょう。

家庭教育推進協力企業

企業も家族の応援団！！

企業と県教育委員会が協定を結び、子どもたちの健やかな成長を応援します。630社と締結し、各企業で自主的な取組を進めていただいています。(H29.5現在)賛同いただく企業を募集しています。

家庭教育の4つのポイント

- 生活習慣を身につけよう**
 - 早寝・早起き・朝ごはんを生活リズムを整えましょう。
 - 家庭学習やメディア使用に家庭のまきりをつくりましょう。
- 生きる力を育てよう**
 - あいさつやマナーの姿を教示し、人と関わる力や判断力を育てましょう。
 - 家族の一員として役割を与えましょう。
- 夢を育てよう**
 - 親の勤務先や、挑戦する楽しさや夢を見せ、一緒に夢を語りましょう。
 - 読書や体験で、感性や知的好奇心を育みましょう。
- 広い心で受けとめよう**
 - 子どものできる力を信じ、見守るゆとりを持ちましょう。
 - 良いこと・悪いことを自分で判断できるように、愛情をもってほめたり叱ったりしましょう。

市町村で行う幼児健診及び小学校等を通じて、リーフレット「子どもと向きあうととりの家庭教育」を配布しています。

保護者懇談会や研修会で家庭教育について考える時間をもちましょう。

家庭教育をテーマにした研修会に「ととり子育て親育ちプログラム・ファシリテーター(進行役)や「家庭教育アドバイザー」(講師)を無料で派遣します。ご活用ください。

問合せ先 県教育委員会小中学校課 学校・家庭・地域連携推進担当 【電話】0857-26-7521 【FAX】0857-26-8170

シリーズ 市町村教育委員会の取組紹介

鳥取市 中学校区兼務教員の活用

～小中一貫教育推進に向けて～

小中一貫教育の取組は全国的にも大きく広がっており、昨年度は小中一貫教育の新たな学校制度として「義務教育学校」が制度化されました。鳥取市では平成23年度より「小中一貫教育推進プラン」、平成26年度からは「特色ある中学校区創造事業」を推進しており、中学校区を基盤とした小中一貫教育を通して、「学力の向上」と「学校不適応の解消」に継続的に取り組んできました。平成22年度より始めた「中学校区兼務教員」の取組は、年を追うごとに兼務教員の数や職務内容が順次拡大しています。昨年度までの兼務教員の主な職務の内容は、①生徒指導②特別支援教育・教育相談 ③学習指導、授業改善・学力向上 ④保健指導・健康相談でしたが、本年度は「小中学校連携」に関する分野が新たに加わり、小学校から中学校への兼務教員の数も増えました。本年度、鳥取市全体では114名の兼務教員が配置されています。

問合せ先 鳥取市教育委員会学校教育課 【電話】0857-20-3357 【FAX】0857-29-0824 E-mail kyo-gakkou@city.tottori.lg.jp URL <http://www.city.tottori.lg.jp/>

米子市 楽しく安心な学校づくりサミット

米子市では、平成26年度より市内中学生の交流の場として「米子市中学生生徒会サミット」を開催していました。各校の代表者が自校の特色ある取組について意見交換を行う中で、中学生の自治的な活動に対する意識の高まりが見られるようになりました。この自治意識の高まりを小学生にも広げ、また全体的な取組とすることを目的として、昨年10月に小・中学校校長会と連携して「楽しく安心な学校づくりサミット」を開催しました。サミットには市内の小・中学校の代表者約80名が参加しました。話し合いでは、小グループ毎に中学生がリーダーシップをとりながら、日頃の学校生活を見つめ直し、より安心して楽しく過ごすためには、どんなことを考えなくてはならないのかといった視点で積極的な意見交換が行われました。そして最後には「自分たちでつくっていく、みんなにとって安心できる学校を、安全な学校を、楽しい学校」という宣言文を発表しました。サミット後は小中学生が共に活動しようという意識が高まり、昨年の鳥取中部地震に際しては、被災された方々へ自分たちにできることはないかと各中学校区で小・中学生が共同で義援金の募

金活動を行いました。その他、小中学生による合同のあいさつ運動やボランティア活動など各中学校区の実態に応じた新たな取組が進められています。本市としましては、児童生徒の自主的・自発的な取組の推進に今後の「米子市版小中一貫教育」のひとつの柱になるものと考えております。また、児童生徒に自治の力を育むことは、将来的に自治力のある市民を育てることにもつながります。平成29年度は8月23日(水)にサミットを開催予定です。昨年以上に子どもたちの活発な議論を期待しています。

問合せ先 米子市教育委員会学校教育課 【電話】0859-23-5431 【FAX】0859-23-5413 E-mail gakkou@city.yonago.lg.jp

シリーズ 鳥取東高等学校 21世紀の鳥取、そして日本を支える人材の育成に努める

「鳥取学」推進事業…地域を理解し、地域を支える生徒を育てるために、第1学年で県内企業・大学等の訪問研修や企業の方・研究者等を招いて講演会を実施しています。

①「鳥取学」訪問研修

10月に7つのコースに分かれて研修を実施し、事後学習として12月に報告発表会を開催しました。

【訪問先】
TEAMザック技術研究所、鳥取地方裁判所、鳥取県庁、中国電力、鳥取大学工学部、リコーITソリューションズ、JICA、山陰合同銀行、日本海ケーブルネットワーク、日本海新聞、鳥取大学医学部、鳥取大学農学部、乾燥地研究センター

生徒の感想から
企業を訪れたとき、仕事に対する姿勢がすごいと感じました。専門性が高く難しそうでしたが、やりがいがあると聞いて、自分が就職するときは、少し難しそうでも挑戦してみたいと思いました。

②「鳥取学」講演会

2月に県内産官学界から10分野の講師を招いて講演会を実施しました。

【講師所属先】
鳥取看護大学、鳥取銀行、ひよこカンパニー、砂丘園芸、モルタルマジック、バルコス、アクシス、LASSIC、鳥取県商工労働部、MOYORINO

生徒の感想から
僕は将来、どこで何をやるのか何も決めていなかったのですが、今回の講演を聞いて、県内に残って働くのもありだな、県内にもこんな仕事があるのだな、とあらためて気づかされました。

問合せ先 鳥取県立鳥取東高等学校 【電話】0857-22-8495 【FAX】0857-22-8497

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教員全体の指導力向上を図っています。今回は、鳥取県立倉吉農業高等学校の山田徳明教諭(認定分野：農業)にお話を伺いました。

整理整頓でクラスの雰囲気が変わる

常に気配りしているのは、授業を行う場所の環境です。教室が整理整頓されているだけで、そのクラスの雰囲気が変わります。私は生徒が登校する前に毎朝教室に行き、教室の状態を確認するとともに、生徒の学習環境を整えることを日課としています。気持ちよく学べる環境づくりが大切だと考えています。

実践の中で学ぶ

「農業」教科は、畜産、園芸、作物、食品、造園、林業、農業土木等、多様な分野を扱います。その中で、私は造園分野と植物バイオテクノロジーを担当しています。農業は、机に向かうだけでは力になりません。実際に実習する中で学ぶことが重要な教科です。聞いて、見ただけでは理解しにくいことも、本物に触れ、実際に扱ってみると、理解できるようになります。例えば、植物バイオの実験器具の精度を考えると、メスピペット、ホールピペット、駒込ピペット、メスシリンダーを準備し、どの器具が一番精度が高いかをグループで考えます。グループの発表後、実際にすべての器具を使ってから再度考えて答えを導いていきます。その理由が理解できたとき、ほとんどの器具の精度の良さや使い方が理解できるようになります。この方法では器具の精度と器具の使用方法が同時に学べます。このように、物事の答えだけを覚えさせるのではなく、楽しみながら探究し、学習理解が深まるようにしています。その他、実習の授業では、まず「目的」を鮮明にし、次に「言って聞かせ」「やって見せ」「やらせてみる」。そして最後に「褒める」ように心がけています。褒めることは生徒に自信をつけさせ、やる気の源になるからです。実験の後は学習内容を深めるため、また理解度を確認するためにも課題として必ずレポートの提出を課しています。レポートは添削し、評価やメッセージを書き生徒とのコミュニケーションを図っています。農業という教科は、実験・実習の中で何かを感じ、教科書では学べないことを学び、見えていなかったことが見えてくることもあるようです。これは五感で学ぶといつよいかもしれません。最後になりますが、授業で大切なのは、生徒の意見・解答をすべて受け入れることからスタートすることだと感じています。生徒が「学ぶ楽しさ」を知り「やればできる」という自信をつけてくれることを願っています。

問合せ先 県教育委員会高等学校課 【電話】0857-26-7917 【FAX】0857-26-0408

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第25回 スマホを持って、遺跡へGO!!

昨年大ブームになったスマートフォン用ゲーム「ポケモンGO」。皆さんの中にもプレイした人がたくさんいると思います。このゲームでは、スマホの画面越しに、自分が見ている風景の中にポケモンが出現します。こうした、現実の世界に仮想の映像などを付け足す技術を、「AR(Augmented Reality:拡張された現実)」と言います。最近、この技術を遺跡で活用する取組が全国で広がりはじめました。鳥取県内の遺跡でも、国史跡青谷上寺地遺跡(鳥取市)と都倉山たたら跡(日野町)でAR技術を使ったスマホ・タブレット用アプリがつくられて、この春公開されました。青谷上寺地遺跡のアプリ「地下の弥生博物館 青谷上寺地AR」は、弥生時代の遺跡が発掘されたときの様子をARで体験したり、勾玉や鏡などのパッチャル出土品を見つけてコレクションしたり、動画で遺跡の解説を見たりすることが出来ます。都倉山たたら跡のアプリ「たたら」は、江戸時代から明治・大正にかけて奥日野で盛んに行われていた「たたら製鉄」の作業の様子や「たたら場」での暮らしの様子をARでパッチャル体験できます。どちらのアプリも、現地を訪ね、遺跡の雰囲気を感じながら遺跡について楽しく学ぶことができます。この夏休みは、スマホを持って遺跡に行ってみよう!

※タブレットの貸出しも可能です。「青谷上寺地AR」は文化財課(0857-26-7932)、「たたら」は日野町役場企画政策課(0859-72-0332)までお問合せください。

↑「青谷上寺地AR」のダウンロードはこちらから

↑「たたら」のダウンロードはこちらから

問合せ先 県教育委員会文化財課 【電話】0857-26-7934 【FAX】0857-26-8128 鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化財ナビ) <http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>